

# 大豆技術情報 第3号

令和3年7月  
富山市農業協同組合  
富山農林振興センター

「莢数確保のための畦間かん水」「適正な病害虫防除」「早めの雑草対策」を徹底し、品質・収量の高い大豆づくりを目指しましょう！！

## 排水対策

- ・培土作業でできた溝と額縁排水溝は必ず連結して排水口につなぎ、スムーズに入排水ができるようにしましょう。



排水口まで溝を連結し、入排水を促す。

## ☆畦間かん水

青立ちを予防するために重要です！

- ・開花期頃(全株数の40～50%が開花)から、9月上旬頃までの間に3日以上晴天が続いたら、早めにかん水を行い、落花・落莢を回避し、莢数の確保に努めましょう。
- ・畦間かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止め、速やかに排水しましょう。

## 雑草防除

- ・培土後も残草がみられた場合は、雑草の種類や生育状況を確認し、適期に除草剤を散布しましょう。

○難防除雑草(帰化アサガオ類、イヌホオズキ類、ヒユ類)が増えています。

早期発見に努め、見つけ次第速やかに防除(手取り除去, 除草剤散布)してください。

表1 大豆の生育期処理除草剤

対象雑草名	薬剤名	使用時期	使用方法	10a当たり散布量	本剤使用回数
1年生雑草	バスタ液剤 (非選択性除草剤)	本葉5葉期以降、雑草生育期 但し、収穫28日前まで	畦間・株間 処理	薬量 300～500ml (水 100ℓで希釈)	3回以内
	ロックス (非選択性除草剤)	本葉3葉期以降、雑草生育期 (雑草草丈 15cm以下) 但し、収穫30日前まで		薬量 100～200g (水 70～150ℓで希釈)	1回

※バスタ、ロックスの散布では吊り下げノズルを用い、大豆に薬剤がかからないよう注意して散布してください。

## 病害虫防除

～適期の病害虫防除により、高品質な大豆に仕上げましょう！～

表3 薬剤と散布時期の目安

防除体系	防除時期の目安		対象病害虫	薬剤名	使用時期	10a当たり散布量
随時	7月下旬～8月上旬 (葉が巻き始めたら)		ウコンノメイガ	ダントツH粉剤DL	収穫7日前まで	4kg
				プレバソンフロアブル5	収穫7日前まで	希釈倍数 4,000倍 使用液量 150～300ℓ
基本 (1回目)	莢が伸びきった頃	8月10日頃	紫斑病・カメムシ類	スミチオンベルコート粉剤DL	収穫21日前まで	3kg
基本 (2回目)	1回目の10日後	8月20日頃	紫斑病・カメムシ類	トライトレボン粉剤DL	収穫14日前まで	3kg

※防除の際は、農薬使用基準を必ず守り、風向き等に注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

- ◎カメムシ類の加害が著しいと莢数が少なくなり、青立ちが発生する場合があります。8月下旬～9月上旬頃に、カメムシ類のほ場への侵入が多い場合は、追加防除を行いましょう。



イチモンジカメムシ



カメムシ加害による青立ち

○令和3年度 富山県農薬危害防止運動(6/15～9/14) ～農薬は周りに配慮し正しく使用～

○熱中症対策 ～適度な休憩を取り、あわせて休憩時には必ず水分を補給しましょう～